

第4学年1組 社会科学学習指導案

指導者 場家 誠

1 単元名 「今につながる吉田新田 ～吉田勘兵衛の挑戦～」

2 単元目標

約350年前に行われた吉田新田の埋立事業について調べ、埋め立てに携わった吉田勘兵衛を中心とする先人の働きや努力について考えることができるようにするとともに、それらの開発が今日の横浜の発展につながっていることに気づき、地域社会の発展に関心をもてるようにする。

3 単元について

(1) 指導内容（学習指導要領より）

【第3学年及び第4学年】内容(5)

地域の人々の生活について、次のこと（ア～ウ）を見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。

ア 古くから残る暮らしにかかわる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子。

イ 地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事

ウ 地域の発展に尽くした先人の具体的事例（←本単元で取り扱う内容）

※内容の取扱（ウについて）

○ 先人の「具体的事例」については、開発、教育、文化、産業などの地域の発展に尽くした先人の中から選択して取り上げるものとする。

・ 地域や児童の実態を考慮し、先人の働きと地域の人々の生活の向上とを関連付けて考えることのできる事例を選択して、その人物の業績を中心に学習できるよう配慮する。

※指導計画作成上の留意点

○ 歴史的な内容であることから、見学や体験、インタビューなどを取り入れるなどして実感を伴った理解ができるよう配慮する。

○ 地域の人々の生活の変化や人々の願いを考えるとともに、地域の変化や地域社会の発展を願ってきた人々の生き方に触れるようにする。

○ 横浜の発展に尽くした人々では、以下の人々を取り上げることが考えられる。

吉田勘兵衛（吉田新田開発）、浅野総一郎（京浜埋立）、ヘボン（教育・医療）、パーマー（水道管理設）

(2) 子どもの実態

①問いを発するようになった子どもたち

ここまで社会科では「ごみをへらそう ～G30からヨコハマ3R夢へ～（廃棄物処理）」、「わたしたちのくらしと水 ～水は作られる～（飲料水の確保）」、「火事からまちを守る（消防の働き）」、「まちの安全を守る人々（警察の働き）」、の学習をしてきた。それらの単元では、清掃工場やごみステーション、浄水場、スクールゾーン対策協議会、消防署などを見学したり、水の飲み比べや各種出前授業などを体験したりしてきた。そうした見学や体験によって、多くの子どもたちは、問題意識を掘り起こされ、自ら問いを発するようになってきた。また、そんな子どもたちの発した問いをもとに学習を展開するよう努めてきた。本単元においても、これまで同様に、子どもたちの問いを大切にしながら授業を展開していきたい。

②情報の選択及び活用にまで視野を広げてほしい子どもたち

国語「読書活動について考えよう」では、アンケートを用いて情報を収集し、わかったことについてまとめる、という学習に取り組んだ。また、日頃より図書館司書と連携し、図書館資料を活用した調べ学習に取り組むことが多い。

一方で、インターネットや電子メール等を用いた情報収集の経験は少ない。さらに、情報を収集した後に、そこから自分たちの学習に必要な情報を取捨選択することができず、いわゆる情報過多の状況に陥ることもある。

そこで本単元では、まず、子どもたちにIT機器を活用した情報収集を経験させたい。さら

に集めた情報を学習問題の解決に必要なかどうか（つながるかどうか）といった視点から取捨選択し、活用できるようにしていきたい。

(3) 教材の価値

子どもたちは、これまでの学習を通して、自分たちのまち（横浜市や学区域）には、人々のくらしをよりよくするための社会的なしくみや施設が整えられていること、多くの人々の努力や工夫、協力によって現在の自分たちの生活が支えられていることを理解してきた。

本単元では、新田開発という形で地域の発展に尽くした吉田勘兵衛を中心とした先人の働きを調べ、努力や苦心について考えていくことになる。その中で、350年前も今も変わらず、よりよい生活を求めて努力したり挑戦したり続ける人間の姿をとらえられるようにしたい。

「吉田新田」を教材として取り上げる価値については次のように考えている。

①実際に何度も足を運んで、新田の広さや今の様子を確かめることができる。

子どもたちでも十分に歩いていける距離にある吉田新田跡。子どもたちから「見てみないとわからない。」「もう一度見てきたい。」という言葉が発せられるような授業を展開したい。

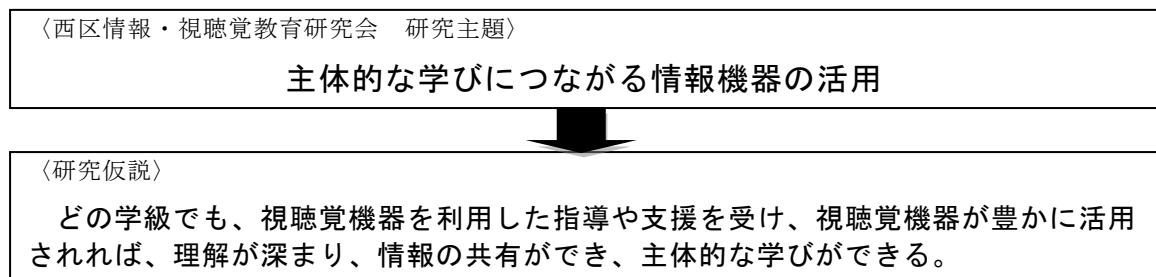
②当時の様子を知る手がかりが数多く残されている。（神社、碑、土取場跡、各種資料など）

①と同様に、子どもたちが資料（事実）を欲するような授業にしていきたい。

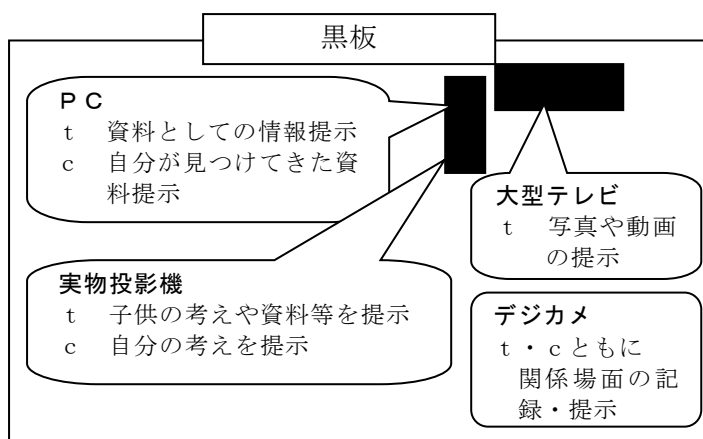
③人物の生き方をもとに「このまちに生きる」ことについて考えることができる。

江戸の材木商だった勘兵衛さんが私財を投じ、苦心しながら完成させた吉田新田。そんな勘兵衛さんの生き方に共感しながら、吉田新田の開発と今の自分の生活とのつながりを実感できたとき、子どもたちは「今、横浜の地に生きている」ことのありがたさに気づくだろう。

4 研究主題に迫るための手だて



(1) 活用する視聴覚機器の種類とレイアウトについて



本学級では、これまで視聴覚機器として、主に「大型テレビ」・「P C（Y Y N E T 常時接続）」・「実物投影機」・「デジタルカメラ」を活用してきている。

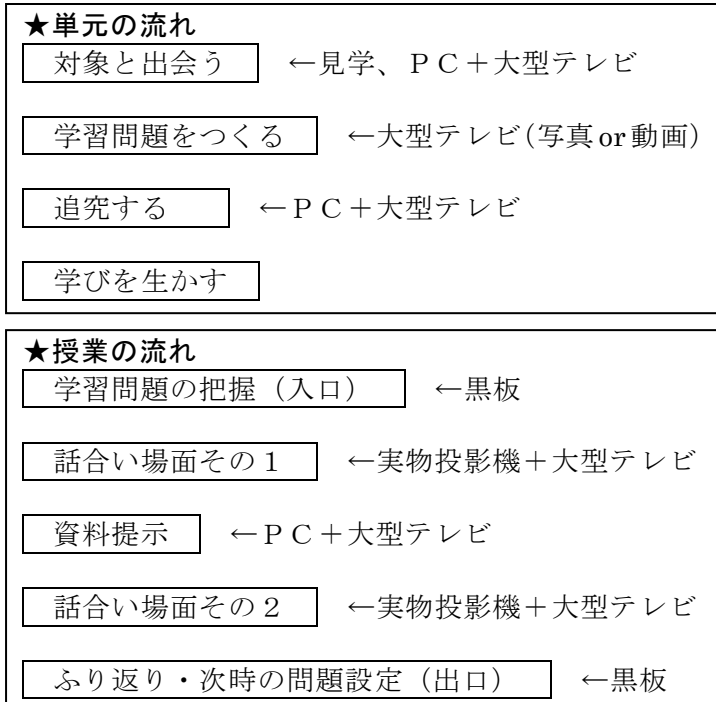
活用のねらいは、教材や学習対象に対する子どもたちの興味関心を引き出したり、学習への集中力を持続させたりすることはもちろんのこと、子どもたちの理解を促す効果的な資料提示といったことが挙げられる。

ただし、ほとんどの場合、その活用主体は担任である。

それゆえ、研究主題や研究仮説に記述されているような、子どもたちの「主体的な学び」へのつながりに関しては、まだまだ不十分である。

本実践では、子どもたちの問題意識を引き出し、「解決したい」という思いを十分高めた上で、子どもたちが視聴覚機器を適切に活用できるようにしたい。そのためには、子どもたちにとって活用しやすいレイアウトを考えるとともに、日頃から積極的に機器にふれさせることが重要になってくる。

(2) 視聴覚機器の活用場面について



本実践における視聴覚機器の主な活用場面については、左記のような場面が考えられる。

大型テレビを使う場面では、学習展開を急がず、静止画や動画などの資料を子どもたちがじっくり見るようにしたい。そうすることで、様々な気づきが得られ、子どもたちも問いを発しやすくなるだろう。また、話し合いが必要な場面では、子どもたちが自分の考えを書いたノートを提示したり、考えの根拠となる資料を提示したりすることができるようになりたい。

活用する内容(コンテンツ)としては、YYNET「よこはまデジタル百科」の「吉田新田」が中心となるが、資料点数がたくさんあるため、すべての子どもにすべての資料を見せることはできない。

教室のPCを常にインターネットに接続しておき、子どもたち自身が必要感を感じたときに、授業と授業の合間の時間などを使って、自ら見られるようにしておく。

また、新田跡地見学の様子や昔の道具を使った模擬体験の様子などを録画しておくことで、子どもたちが自らの考えの根拠として、いつでも提示できるようにしておきたい。

5 注目する子ども（学習展開のポイント）

○「わからなさ」を引き受け、学習意欲、表現意欲を高めてほしいAさん

Aさんは昨年度算数の指導をしている際に、何度か「わからない。」という声を発するのを聴いていた子である。

授業をしていると、わかったつもりになったり、そもそも「何がわからないのか」がわからなかったりする中で学習を進めている子どもがいるなど感じることもある。そんな中で、Aさんのように、よくわからないことや納得できないことに対して「わからない。」という声をあげることはかなり勇気のいることのように思われる。しかし本来、学習とは「わからない」から出発して「わかる」ことを目指す営み、言い換えれば「不安」と「安定（安心）」を行ったり来たりする営みであると考え、Aさんのように「わからない」ことを自覚し、表現することは、集団の学びをつくっていく上でとても重要である。

そこで、本単元ではAさんの「わからなさ」に注目し、本人には、その不安な状態を一旦受け入れることがよりよい学びにつながることを実感させたい。また、Aさんの「わからなさ」をみんなで追究していくことで、集団としての学習意欲の高まりにつなげていきたい。

○自分なりの考えを積極的に表現し、他者とやりとりすることで学びを深めてほしいBさん

Bさんは、様々な視点に立つ友だちの意見をよく聞いている。しかし、聞いた後の反応がやや弱いため、彼の反応やつぶやきを見逃したり聞き逃したりしないように気をつけてきている。

友だちの意見に対して反応する場合、その反応は「同じ・似ている・賛成」型または「ちがう・反対」型の2つに大別できる。いずれにしても、自分なりの考えをもっていることが前提となる。そのように考えると、反応が弱いときのBさんは、学習問題に対する自分なりの考えが明確になっていないということが言える。ノート記述などの様子からは、社会の学習に対して関心をもって意欲的に取り組んでいることがわかるだけに、まずは、自分の考えを明確にできるような支援が必要である。さらに話し合いの場面では、友だちの考えとの出合いを自らの考

えに生かしたり、他者の学びの役に立とうとしたりする姿勢は弱いため、他者に拓かれた学びを意識させたい。

そのためには、ノート記述や授業間の対話などから、Bさんの問いや考え及びその背景を丁寧にみとり、授業においては意図的に指名したり、考えを補足するなどしていきたい。そして、何よりもBさんの発言の後に、まわりの子どもの発言を引き出すことが大事になってくる。まわりの子どもの反応がBさんの学習を深めていくことになるだろう。

○学習展開のポイント

Aさん・Bさんにとって上述したような学習を実現するためのポイントとしては次のようなことが考えられる。

本単元は、350年以上前の歴史的事象を取り上げて学習していく単元である。当時の人々に直接会って話を聞いたり、当時の工事の様子を実際に見たりすることができない。そんな条件の中、子どもたちが具体的な事実に基づいて考えながら、問題解決的に学習を進めていくことが大事になる。

①見学や体験活動を効果的に取り入れる。

導入時の吉田新田跡地見学や土運び、模型作りといった体験などを通して、新田の広さや工事の難しさ、苦心の様子などを実感的にとらえさせたい。そうした実感が、子どもたちの問題意識を高めることにつながるだろう。

②短冊カードを活用し、年表づくりや話し合いに生かす。

見学や体験などの共通経験を通して、わかったことや思ったこと（問いも含む）を短冊カード（A4版画用紙を2等分したもの）に記して、残していくことで、吉田新田開発に関わる年表を作りやすくするとともに、子どもたちが単元のどの場面でも自らの学びをふり返られるようにしたい。また、他者の気づきや考えを見やすくすることで、話し合う場面における子どもたちのやりとりをより活発なものにしていきたい。

6 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・ 資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解
1 写真資料や絵地図などを見て、吉田新田に関心をもち、意欲的に調べている。	3 吉田新田の埋立に尽力した吉田勘兵衛を中心とした先人の働や苦心について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。	5 吉田勘兵衛を中心とした先人の働きについて必要な情報を集め読み取っている。	7 吉田勘兵衛を中心とした先人の働や苦心を理解している。
2 吉田勘兵衛を中心とした先人の生き方に関心をもち、地域社会のよりよい発展を考えようとしている。	4 約350年前の横浜に暮らしていた人々の願いや生活の向上と、吉田勘兵衛を中心とした先人の働や苦心とを関連づけて考え、適切に表現している。	6 資料や調査した内容から必要な情報を取捨選択しノートや年表などにまとめている。	8 吉田勘兵衛を中心とした先人の働や苦心が現在の横浜の発展や人々の生活の向上につながっていることを理解している。

7 わたしの単元構想（社会 13 時間＋総合 4 時間） ◆主な評価の視点

「吉田新田って何？どこ？」 2 枚の絵地図を見比べよう（4h＋総合 2h）

※埋立前と埋立後の絵図を見比べたり実際に歩いたりするところから学習をスタートさせる。

【わかったこと】

- ・ A（埋立前）には古い田ある。入海には川が流れ込んでいる。村には家がある。入海には船が浮かんでいる。
- ・ B（埋立後）は、入海がなくなっている。海ではなく 3 本の川になっている。橋がかかっている。
- ・ 吉田新田をつくったのは「吉田勘兵衛」さんだって。
- ・ B の地図にあった真ん中の川は今はなかった。

【思ったこと】

- ・ どうして入海を埋め立ててしまったのか。
- ・ 入海を埋め立てて何をしたかったのか。
- ・ だれが埋め立てたのか。
- ・ どうやって埋め立てたのか。どれくらいかかったのか。
- ・ どこから、どうやって大きな石を運んできたのか。
- ・ どうして 3 本の川を残したのか。

◆吉田新田の埋立に関心を持ち、具体的な問いを見いだすことができたか。 関意態

「入海を埋め立てた吉田勘兵衛」先人の働きや苦心を考えよう（7h＋総合 2h）

※子どもたちの問いをもとに、吉田勘兵衛の挑戦について、体験や出前授業を取り入れながら具体的に追究していく。

「どうして埋め立てたの？」目的

- ・ どうして、わざわざ海をうめたてたのか？
- ・ 田んぼがそんなに必要だったの？



吉田勘兵衛の新田開発

「だれが埋め立てたの？」人

- ・ 入海の周りには何人くらい住んでいたの？
- ・ だれが埋め立てようと言ったの？
- ・ どんな人が工事に参加したの？

当時の村人

- ・ どんな村だった？
- ・ どんな生活してた？
- ・ 人々は新田がほしかったの？
- ・ 新田ができてよかったのか？

「どうやって埋め立てたの？」方法

- ・ あんなに広い土地をどうやって埋め立てたの？
- ・ どれくらい時間がかかったの？
- ・ 石垣に使われた大きな石はどうやって運んだの？
- ・ 一度失敗しているのに、もう一度挑戦したんだ。
- ・ 2 回目は失敗しないように工夫したんだ。【本時】（堤の強化と水門設置、川の三分化、技術者の協力等）

吉田勘兵衛さん

- ・ 江戸の材木商人
- ・ 私財（8038 両）を使い吉田新田を作った。
- ・ 一度失敗したが、二度目で完成させた。
- ・ 完成後、吉田姓をもらい、新田内に住んだ。

◆当時の人々の願いや生活の向上と先人の働きや苦心とを関連づけて考え表現できたか。 思判表

◆先人の働きや苦心について必要な情報を集め、読み取ることができたか。 観技

◆先人の働きや苦心を理解することができたか。 知理

「吉田新田から今へ」これからの街づくりについて考えよう（2h）

※吉田新田開発後の横浜の変化の様子について調べ、今も、そしてこれからも横浜は変化し、発展し続けていくことをとらえられるようにする。

☆①開港直後、②関東大震災後、③戦後、④最近、それぞれの横浜（伊勢佐木町やMM地区）の写真などをもとに考えさせたい。

勘兵衛さんに手紙を書こう。勘兵衛さんは今の横浜を見てどう思うかな？

◆勘兵衛の生き方に関心を持ち、横浜のよりよい発展を考えようとしているか。 関意態

指導計画及び実際の学習の流れとその後の見通し

□ 具体的評価規準 ◆ 指導内容	学習活動の概要 ☆ 視聴覚機器及び資料の活用	A さんについて	B さんについて
10/29 ① 1 ①埋め立て前と埋め立て後の 2 枚の絵図を見比べ、気づいたことや思ったことを表現することを通して、吉田新田の開発対	第①時 2 枚の絵地図を見てわかることや思ったことを書きだそう ◇ A（埋立前）と B（埋立後）の絵地図を提示し、どちらがより古い時代の絵地図か考えることを通して、現在の伊勢佐木町付近は約 350 年前に入海だった場所がうめ立てられてきた場所であることをとらえた。	A と B ではどちらが古い時代の絵地図だと思うかという問いに対して、陸地を海にするのは大変だから A の方が古いと考え発言した。 ふり返りに 350 年	話し合い中、発言場面はなかったがふり返りには、そもそもヘリコプターのない時代にどうしてこんな絵地図がかけたのか、だれが作ったのか、なぜ作ったのかなど

する関心をもって いる。 ◆吉田新田が今ど こに位置するのか ◆埋め立てられた 土地であること	☆この時間に使ったA（埋立前）とB（埋立後） の絵地図は、単元の中心資料となるため、拡 大コピーをして教室前方上部に常掲するよ うにした。	前なのにAからBに なるまで、どうい う技をつかって海 をなくして田にし たのか不思議と 記述。Aさんなり の問題意識をもつ ことができた。	8つの問いを記述 するなど、関心の 高さを示していた。 次時以降、Bさん の関心の高さや問 題意識を全体に紹 介していきたい。
11/5 ① ⑤ ②③実際に歩いて みる活動を通して、 広さや平坦な土地 の様子など吉田新 田の特徴を実感的 にとらえるのと ともに、具体的な 問いをもっている。 ◆どれくらいの広 さがあるのか	第②③時（＋総合2h） 吉田新田があった場所を歩いてみよう ◇大岡川中村川分岐点→堰神社→日枝神社→ （吉野町駅前→阪東橋）→大通り公園→伊勢 佐木長者町駅改札前→天神山土取場跡の順 で見学してきた。 途中要所要所で、埋立地故に平坦であること や、大岡川を渡る際に入り海の外と中の分か れ目であることなどを説明した。 ☆担任及びAさんが上記見学場所の様子を撮 影し、それらを1枚の模造紙にまとめ教室に 常掲できるようにした。	クラスのホームページ投稿係でもあること から、事前に見学中 の写真撮影用にデ ジカメを渡した。特 に日枝神社の境内で は、案内板や石碑な ど自分なりに気にな る所を撮影すること ができた。ただし、歩 行場面が長かった後 半は撮影できなかった。	歩行中はもちろん、 見学場所に着くと、 しおりの中の地図 でどこを歩いていて、 今どこにいるのかと いったことを常に確 かめていた。 この日歩いた距離 は、吉田新田の実際 の周囲の約1/3であ ることを知り、その 広さを実感することが できた。
11/5 ③ ④絵図を見比べたり、 実際に見学した ことをもとに、吉 田新田開発の工夫 や努力について追 究する計画を立て ている。	第④時 見学してわかったこと、思ったことを整理しよう ◇短冊カードに見学を通して、わかったこと や思ったこと、気になったことなどを記入し、 黒板にはっていった。それらを子どもたちと 一緒に仲間わけしながら、次時以降の学習を どう進めて行くといいか話し合った。 ☆子どもたちの発見や疑問の整理分類には短 冊カードを活用する。自らの発見や疑問につ いて説明する際に必要な場合は、補助資料と して見学時に撮影してきた写真を提示した。	見学後のノートには ①どうして吉田勘 兵衛が苦労して作 った新田はこわさ れてしまったのか、 ②どうして日枝神 社は吉田勘兵衛の 歴史や彫り物を置 いたりするほど勘 兵衛にこだわるの か、といった問い の記述が見られた。 次時はAさんの問 いの意味するところ を問うてみたい。	見学後のノートには、 ①吉田新田は思っ たより大きかったし、 町をいくつものは さんでいるからすご いと思った、②大 岡川から中村川の 距離が近いし、日 枝神社から堰神社 の距離も近かった、 何か関係があるの か知りたい、と記 述していた。次時 以降、川の役割に 目を向けさせたい。
11/10 ④ ⑤ ⑤吉田新田という 広大な土地の開 発をリードした勘 兵衛さんの年表づ くりを通して、吉 田新田開発の概要 をつかんでいる。 ⑤⑥吉田新田が できる前の横浜村 の様子や人々のく らしぶりを調べる ことを通して、当 時の横浜村は人の 少ない漁村であっ たこと米があまり とれない場所であ ったことをとらえ ている。 ◆勘兵衛さんの職 業や出身地 ◆当時の横浜村の 様子、人々の生活	第⑤、⑥時 どうやってうめ立てたのか？ ◇第④時終了時における子どもたちの問題意 識は、大きく分けて、「方法（どうやって）」、 「理由（なぜ）」、「人」、「物」、「金」であり、まず は「どうやってうめ立てたのか？」という問い について追究していくことにした。 ☆最初に、教科書や「わたしたちの横浜」では、 調べられないことを確認してから、パソコン ルームへ行き、よこはまデジタル百科「吉田 新田」を活用して調べることにした。 ここでは、「吉田新田」のどれを見たらよい かという指示はせず、たくさんのタグから 「どうやってうめ立てたのか？」の答えにな りそうなタグを、子どもたち自身で選択する ようにした。 ◇第⑥時後半では、各自が調べたことの中 から、大事だと思う内容を一つ選び、短冊カ ードに書いて黒板にはっていった。その結果、 クラス共通でわかったことは、「年表（いつ 始まって、いつ完成したか）」、「順番（ど こから、どんな順番でうめ立てていったか）」、 「人」、「材料（土）」、「道具」、「費用（約8 千両）」の視点にまとめられた。 最後に翌日の出前授業で聞いてみたいこと をノートに記述して終わった。	前時には、勘兵衛 さんへの関心を見 せていたが、その 後時間があいたせ いか、この日は、 学習に対する関心 そのものが低い 様子であった。 パソコンを使った 調べ活動において も、Aさんの使っ たパソコンの接 続状況が不調で、 思うように「よこ はまデジタル百科」 を見ることができ なかった。そのせ いもあり、学習問 題に対する自分な りの答えが書けな かった。 最終的には、友達 の発言等を通して、 一定の理解はでき たが、関心を高め るところまではい かなかった。出前 授業に向けては「 何人の人が新田 づくりに協力した のか？」という問 いを記述していた。 学芸員の回答にど うに反応するだろ うか。	日頃から家庭にお いても、PCを使う 機会が多いようで、 「吉田新田」につ いても家庭学習と してインターネット 検索をしていた。 ただし検索はでき るが、そこから自 分に必要事実や言 葉を選び出すとか 自分にわかる言葉 でまとめ直すとい ったことについては、 まだまだ課題があ る。 この時間の「よこ はまデジタル百科」 のページを開き、 読んでいたが、学 習問題が大きすぎ て、答えとしてど うまとめればよい かわからない様子 であった。この時 間の終わりでは、 前時からの流れも あり、新田左上 部の形の変化に関 心を示していた。 出前授業では意 図的に指名し、質 問できるようにし ていた。

11/11 ⑤ ⑦ ⑦想像図などの資料をもとに、埋め立て工事がどのように進められていったのか調べ、350年以上前の工事の様子について具体的な問いをもっている。 ◆工事の進め方 当時の時代背景 勘兵衛の生涯	第⑦時 歴博の先生に吉田新田のことを聞いてみよう 【横浜市歴史博物館学芸員による出前授業】 ◇この時間は、子どもたちの質問に齋藤学芸員答える形で進めた。 主な質問は次のとおり。 ・工事に必要な人をどのように集めたか。 ・両側に川を残したのはなぜか。 ・8千両はだれが出したのか。 ・吉田新田は勘兵衛さんのものになったか。 ・堰神社はどうして小さいのか。 ・吉田新田は何年で完成したのか。 ☆出前授業の様子を録画し、今後の学習の中で必要に応じて見られるようにしておいた。	この時間も、なかなか関心が高まらない様子であった。授業後の聞き取りでは本人も認めていた。 ただし、ノートを見る限り、どんな人が工事に参加していたのかということや両側に川を残した理由、勘兵衛さんの職業などについて丁寧にメモをとっていた。さらに、どうして勘兵衛さんは8千両もお金を余裕で出せたのかというように勘兵衛さんの行動に対する疑問を記述していた。	担任が指名し、第④時の終わりに書いていた「中川と両方の川との距離のちがい(形の変化につながる)」について質問したが、土地の売買(貸借)の関係もあり、少し難しかったようだ。 他には、どんな人が工事に参加していたのか、両側に川を残した理由、勘兵衛さんの職業、当時新田作りがさかんだった背景などを中心にメモをとりながら話を聞くことができた。
11/13 ⑤ ⑧勘兵衛さんの年表や工事の様子などこれまで学習してきたことをもとに、吉田新田開発にかける勘兵衛さんの思いを考え、表現している。 ◆勘兵衛さんの新田開発にかける思い	第⑧時 かんべえさんはなぜ8千両も出して、吉田新田をつくろうとしたのか？ ◇最初に各自がふり返りに書いた内容を出し合った。「1人で8千両出したのがすごい。自分だったら自分のためにお金を使う。」といった24男の意見に共感する声が多く、上記のような問題で話し合った。最終的には、読み物資料の中に「①世の人のため、②名字帯刀のため」といった記述を見つけたが、子どもたちの多くは、そんな勘兵衛さんの判断に納得する様子ではなかった。そこで、読み物資料の最後にある「どんな立派な計画も勘兵衛一人ではできません。村人の協力も必要です。うめ立てはいやだと言っている人のところへ行き、熱心に説明してまわりました。」の記述に着目させ「自分だったら協力するかな？」といった問題意識を引き出した。 ☆学んだことを共有化する場面では録画映像を見直すことを想定していたが、子どもたちからその要求は出なかった。 ☆読み物資料を配付した。	学習問題に対して、「自分のお金で作った米をみんなに食べてほしいから。」「もっとお金を持っていたから出せた。」「自分がお金を出すんだから、お米を買う人からお金が入ってくると出て出した。」等の考えを記述していたが、自分ごとになっていなかったせいか、やはり自分からは発言しなかった。 読み物資料を読んでもからは「自分ならやらないかもしれません。お金がたくさんはいつてくるわけじゃないから。」と少数派の記述をしていた。	学習問題に対して「400年前は食べ物がいなかったからまちをゆたかにするためにやった。」「自分だけいっぱい食べてまちの人が食べないというのはダメだと思ったからやった。」と自分なりの考えを記述し、発言した。 読み物資料を読んでもからは、「世の人のため」という勘兵衛さんの思いに共感し、ふり返りには「自分もまちの人のためにやりたいと思う」と記述していた。「土運び体験」を通してその思いがどう変容するだろうか。
11/14 埋め立て工事に使われたと考えられる道具について調べたり、実際に使ったりすることを通して、当時の工事の大変さを実感的にとらえている。 ◆使われた道具	(総合2h) 土運び体験をしてみよう。 ◇学年園の畑1区画を天神山にみたくて、校庭にひいた潮除堤の断面図(上底5.4m、下底23.4m、高さ5.4m)の中に敷いたブルーシート上に土を運ぶ作業を32名全員で行った。 もとの畑に土を戻す作業も含め、実質作業時間は約60分程度。使った道具は、スコップ(鉄製)、バケツ、くわ(鉄製)、除雪用大型スコップ(プラスチック)など。 ☆模擬体験の様子は適宜デジタルカメラで撮影しておき、第⑨時以降の学習において、子どもたちが考える際の根拠として活用できるようにした。	作業中は主に運ばれてきた土をブルーシートのどこにおくか指示していた。 作業後の感想には「わたしたちががんばって運んだ土の量がすごく少なくてびっくり。これを休まず何年も続けるのはとてもつらいと思った。」と記述していた。改めて協力するか考えたところ、「やってみて、やっぱりぜったいにやりたくないと思った。」と前時の思いをより強くしていた。「協力する」と考える他者に対して、自分なりの思いを主張する姿を期待したい。	作業は主に掘り出しを担当していた。 作業後の感想としては「思ったよりもむずかしくて大変だった。昔の人々はこれを毎日やるのはめんどくさいと思った。」と言っていた。しかし、改めて協力するか考えたところ「めんどくさいけど、人のためにはやりたいと思う。」と一貫した思いを主張していた。 次時では「協力しない」と考える友達に対して「勘兵衛さんはどんなふうに説得したのかな？」といった投げかけを考えておきたい。

11/17 4 5 ⑨土運び体験をもとに、当時の工事の様子について具体的にとらえられるようにするとともに、勘兵衛さんの考えた 2 回目の工事の計画に目を向けられるようにする。 ◆嵐による被害	第⑨時 土運び体験をふり返ろう ◇前時の終わりに土運び体験の感想と改めて「自分だったら協力するか」について考えノートにまとめた。この時間はそれを出し合うところからスタートした。その際、多くの子どもは「協力する」と考えたが、12 男の「1 年間やってこわれたらもうやりたくないと思う。」という意見が出ると少し立ち止まりが見られた。そこで「協力する」と考える子には「何と言って説得するか」、「協力しない」と考える子には「どうだったら協力するか」考え、ノートに書くよう指示した。 ☆1 回目の工事の失敗の理由をより具体的にとらえられるよう、よこはまデジタル百科「吉田新田」の「大雨で堤が流される」場面を提示した。読み物資料の続きも配布した。	少し関心が増してきたようでデジタルコンテンツはしっかり視聴していた。 ノートには「条件とか成功とか失敗とかじゃなくて、何が何でもやらない。」と思いに強さのわかる記述があった。本時に向かつては、否定的な気持ちの背景を聞いておき、27 女や 12 男などの発言に対してどのような反応をしめすか注目したい。	A さんとは反対に、一貫して「協力する」立場に立って考えており、ノートには「食料不足なのにこのままご飯を食べずに死ぬか、新田ができてご飯を食べて長生きをしてすごすか、どっちがいいですか？」と聞く、と記述している。また「やらないと言われたらあきらめる」とも書いており「勘兵衛さんだったらあきらめるかな」という問い返しを考えておきたい。
11/19 6 7 ⑩ 本時 2 回目の工事を始めるにあたって勘兵衛さんがどのような計画を立てたのか、考え話し合うことを通して、より丈夫な堤防をつくるための工夫や努力を具体的に説明している。 ◆2 回目の工事の工夫	第⑩時 かんべえさんはどのような工夫をしたのだろうか？ ◇2 回目の工事を始めるにあたって、勘兵衛さんが、どのような計画を立てて村人を説得してまわったのか、各自の考えを出し合うことを通して、工事の様子を具体的にとらえる。 ☆よこはまデジタル百科「吉田新田」の「吉田新田をつくる」が中心資料となる。		
11/21 8 ⑪米の収穫量の変化の資料をもとに吉田新田の開発によって村の人々の生活が向上してきたことを具体的に説明している。 ◆米の収穫量の変化、人々の生活	第⑪時 吉田新田ができたことで、人々のくらしはどのように変わったのだろうか。 ◇前時で話し合った勘兵衛さんの思いが、実現したのかどうかという視点で、新田完成後の村の変化や人々のくらしの変化の様子について調べる。 ☆横浜市史による米の取れ高の変化などの資料を提示する。		
11/26 2 8 ⑫開港後の横浜の変化の様子について調べ「みなとみらい 21 地区」などに代表されるように、今も横浜のまちは変化発展し続けていることに関心をもっている。 ◆開港後の変化と戦後の変化	第⑫時 吉田新田ができた後、横浜はどのように変化してきたのだろうか。 ◇開港前後の吉田新田付近の絵地図や戦後間もない頃の横浜市の写真、現在の伊勢佐木町付近の写真などを提示し、横浜の変化の様子をとらえる。 ☆		
12/1 4 6 ⑬勘兵衛さんへの手紙を書くことを通して、吉田新田について調べてわかったことや考えたことなどを自分なりの言葉で整理している。	第⑬時 勘兵衛さんに手紙を書こう ◇学習のまとめとして、現在の横浜の様子にもふれながら、勘兵衛さん宛に手紙を書いてみる。		

